

わたしたちは、信頼と希望と愛の輪で社会をつなぎます



SSKP

いずみ

No.

169

2013年6月

社会福祉法人 泉会

法人本部
泉の家〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番23号
☎03(3417)3451(代) ☎03(3417)3463
izumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/izumi/日の出舎
就労日の出舎〒190-0182 西多摩郡日の出町平井3030番
☎042(597)1451(代) ☎042(597)2205
info@hinodesha.org
http://hinodesha.org/グループホーム
いずみ〒197-0825 あきる野市雨間322-12
☎042(550)9083
lwz12948@nifty.com岡本福祉
作業ホーム〒157-0076 世田谷区岡本2丁目33番24号
☎03(3415)3366(代) ☎03(3415)4976
okamoto@izumikai.jp
http://izumikai.jp/okamoto/岡本福祉
作業ホーム
玉堤分場〒158-0087 世田谷区玉堤2丁目3番1号
☎03(5707)9431(代) ☎03(5707)9433
tamatutumi@izumikai.jp
http://izumikai.jp/tamatutumi/一九七七年十二月三日第三種郵便物認可(毎月二、三、五、六、七の日十八回発行)
一〇一三年五月八日発行(SSKP増刊通巻五三八五号)

●本年の聖句

主に望みを置く人は 新たな力を得、
驚のように 翼を張ってのはる。
走っても 弱ることなく、
歩いても 疲れない。

(イザヤ書40章31節)



第4回成城音楽祭 ピアノ 小林五月さん チェロ 三宅進さん。(成城ホールにて)

『視点を变えて』

理事長 橋向敏治

この世に無関心になり、挑戦する
ことを諦める。失敗を恐れ、打たれ
弱いのは誰でも体験することです。

人は大小の差はあれ、困った状態を乗り越えた時に達成感、充実感を味わうものと思います。特に緊急時や肉体的につらい仕事に注意を喚起するため、鋭い言葉が多く見られます。それが言葉の暴力になるかならないかは、言葉に込める相手へのいたわりと仕事を終えてからのねぎらいの言葉だと思います。それ無しだと鋭い言葉は単なるシゴキになってしまいます。自分を過剰に大事にする反面、他人を思いやれない風潮が強くなりつつあります。最後まで投げ出さない、諦めずに人を支える福祉が求められております。利用者の持つ力と可能性を引き出すのは、福祉の責務だと思います。深刻な問題で出口のないように思える時こそ、視点を变えて見ることが大切です。自分を許容して笑う力を持つこと。にやかな微笑み、それが他人を受け入れ、人生を楽しく生きることにつながると思います。さまざまな人々と関わりながら啓発されて生きることが大切ではないでしょうか。泉会は自由な、明るい、楽しい施設づくりに利用者、職員、ボランティアの方々と共に邁進したいと思っています。今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

日の出舎・就労日の出舎 第三者評価

2012年度の第三者評価は(株)福祉規格総合研究所という評価機関が実施しました。全体の評価講評は次の通りです。

①日の出舎

(1)特に良いと思われる点
☆専門医等の指導に基づき実施する機能・体力維持の様々なプログラム。

☆ケース担当制で利用者を把握し、自立に向けた個別対応を実践する支援の取り組み。

☆自立生活を支援するための様々な情報提供。

(2)さらなる改善が求められる点

☆期間に応じたそれぞれの計画の連動性をさらに高める。

☆利用者や周囲の人との関係づくりに関する支援の充実。

☆地域移行に向けた支援の再強化。

②就労日の出舎

(1)特に良いと思われる点

☆利用者の働く意欲を高め、主体的に取り組むことを目指した就労支援。

☆社会科見学を新たに導入し社会参加や基本的な生活技術の確立に向けた支援を行っている。

☆外部の目を積極的に活用して支援の公平性を確保している。

(2)さらなる改善が求められる点

☆利用者や周囲の人との関係づくりに関する支援の充実。

☆利用者や家族等の高齢化や加齢に伴う課題に対し更なる社会資源の活用や情報提供が必要。

※2012年度は、施設建替え後の支援体制を半期で振り返り、日課や業務の見直しもし、ケース担当制を活かして専門職との協働に努めた。

就労日の出舎でも作業環境の工夫や関係機関と連携した地域支援にも努めました。法人研修担当者、看護師等の協力で支援技術研修も実施しましたが、利用者の人間関係をめぐる支援の充実が求められています。法人事業所間で協力し、経営目標のしくみの再構築に努めます。

岡本ホーム・玉堤分場 第三者評価

岡本福祉作業ホーム・同玉堤分場は、2012年度に第三者評価を受審しました。区の指定管理の関係で毎年受審することはできませんが、過去に2004年度、2005年度、2009年度に評価を受けました。第三者評価は、自己評価や利用者評価に加え、専門の第三者評価機関が客観的に評価し、目標と現実とのズレを認識できる仕組みがあるので、課題改善にとっても役に立ちます。当事業所では、これまで過去3回の評価を基に、次の点を事業所の強みとして継続的に取り組んでいます。

介護協会による評価は、次のとおりです。

☆多機能型事業所の特色を活かし利用者のニーズに即したサービス提供を行っている。

☆地域に向け、工作教室や出張教室等を通して、利用者の活動を発信している。

☆地域の関係機関が連携したネットワークの構築に積極的に参画している。

利用者満足度の高いサービスを継続し、地域のネットワーク等の課題に新たな取り組みが成果が反映されました。

しかし、改善点としては、「多機能型事業所として、本園と分場で支援方針や記録の管理等の一体化を図ること」「職員一人ひとりの能力向上に向けた」「個人別育成計画の作成」「職員の定着を図る、やる気の向上についての幅広い視点での要因分析に取り組む」よう指摘がありました。特に、モチベーションマネジメントは長年の課題であり、根気強く取り組んで行きたいと考えます。

☆多様なニーズに対応し、身体知的、精神に加え、高次脳機能障害を対象として支援を行なっています。

☆ロールプレイを利用者支援や職員研修に取り入れ、人材育成に繋がっています。

☆地域住民参加の工作教室や陶芸市などを開催し地域住民との交流を図り障害理解を促進しています。

そして、今回受審した日本高齢者

日の出舎 新規事業

今年には泉会開設59年を迎えます。設立当時の1950年代は、1949年に「身体障害者福祉法」が制定されたばかりで、具体的な障がい者施策はこれからという時代でした。当時の障がい者は家族の責任において扶養されるのが当然とされ、その家族が貧窮の場合のみ困窮者救済施策(現生活保護法)の中でいくらかの金銭的救済を受けていたようです。1957年朝日訴訟(生活保護基準をめぐる裁判)により、1959年最低賃金法や国民年金法が相次いで公布され、「障害者福祉年金」の支給も開始されるようになりました。しかし、障がい者とその家族の生活に光明が射してきたのは1960年代の半ばからだったようです。このような時代背景の中「泉会」は、1953年の「大蔵身体障害者更生相談所」を前身として、1954年1月に設立されました。障がい者福祉制度が当事者まで行き渡っていない時代に、強い信念を持

ち愛の手を差し伸べるべく、障がい者福祉の先陣を切ったのが泉会を創設したクリスチャンである我々の兄弟姉妹達でした。初めは寝食を共にしながら障がい者と向き合っていたそうです。その支援内容は、戦傷元軍人の自立(就職)の相談から職業訓練及び労働と生活の場の確保が中心であったようです。その後1957年に社会福祉法人泉会となり(生活保護法制定後「泉の家」)、1960年の身体障害者雇用促進法制定後間もなく泉の家は身体障害者収容授産施設に名称が変わり、「日の出舎」や「岡本福祉作業ホーム」も創設され、自立と社会参加の翼を担ってきました。

一方、泉会が開設当初実施していた相談事業は、1960年代に入り、精神薄弱者(知的障害者)福祉法の公布、1970年心身障害者対策基本法(障害者基本法)の頃から公的機関(福祉事務所)で行う様になりました。近年の障害者自立支援法

施行により、地域生活支援事業として専門性の高い相談は都道府県事業、その他の相談は市町村事業として整備し、昨年から、市町村相談支援事業を地域の福祉事業者に付託して「特定相談支援事業」として実施することとなりました。その内容は、事業者が相談者等の意向をお聞きし、その方に合った(福祉)サービス利用計画を作成することが主な仕事です。

そこで、私達は法人設立60周年を前に、基本方針にある「キリスト教の精神に基づいて法人の事業を開拓された先達の心を想い起こし、時代に即したサービスを。」と示されている、先達が60年前に世田谷の地で実施した相談事業を今度は日の出の地で初心に帰って行いたいと考え、昨年から日の出町と協議してきました。結果、日の出町の指定を受ける運びとなり、「特定相談支援事業」を6月から実施することとなりました。

と、ところで、東京都で唯一(全国でも数カ所)日の出舎の敷地で行っていた「通所ホーム事業」は、自立支援法制定と共に除外される形となったた



(西田 徹)

泉の家

年度当初の現員は、45名です。就労移行支援の利用者は0名となっています。支援面では、稼働率の日課数値を生活介護85%、就労継続B型75%としました。年間平均工賃目標は、15,500円です。

【事業所目標】

「わ。輪と和」をコンセプトに、利用者地域の中で活動を拡げます。

【重点目標】

- (1) サービスの質の向上
 - (2) 財務基盤の安定化
 - (3) 新会計基準への移行
 - (4) 人材育成制度・人事制度
- 事業所を結ぶ、枠にこだわらない支援を行い、各事業間の係わりを益々深めます。

給食事業者の見直しをしました。委託事業者と連携を取り、美味しい食事の提供に努めます。

今年度、福祉サービス第三者評価を受審します。



ア)ホーム事業を実施する等地域福祉の充実を図ります。

・震災に備えた準備と復興支援を継続します。

・新会計基準に移行します。

(3) 地域とのつながり。

・いずみ友の会と共に、チャリティコーンサートを実施します。

・販売会等の地域行事や自治会活動等に参加します。

・地域自立支援協議会等の自治体会議に参加し、地域障がい者施策の状況把握と発展に努めます。

岡本福祉作業ホーム

「風通しの良い職場を目指して」

岡本福祉作業ホームは、法人理念に基づき職員の人権意識を向上させ利用者一人ひとりに適切な支援を行なう為に、次の重点課題は、事業所コンセプト事業所目標に沿って進めます。

事業所コンセプト

- ☆「みんな」が元気に過ごせる事業所を目指します
- ☆地域に信頼される事業所を目指します

日の出舎

就労日の出舎

グループホームいずみ

「地域福祉の新たな展開」

皆様のご協力の下、日の出舎新舎屋が完成し1年が経ち、利用者は個室で自分なりの生活を楽しんでおります。

今年度は、新たな事業として地域生活支援にも目を向け、グループ「ケア」ホームの創設と特定相談支援事業の実施及び新制度から削除された数

地内にある「通所ホーム事業」を就労日の出舎の就労継続B型事業へ転用します。

また、研修等を充実させ職員の資質向上を図り、権利擁護の視点に立つたサービスを心掛けます。

・日の出舎は、利用者の疾病の増加と機能の重度化の対応として、運動やリハビリの強化及び基本的な生活習慣の確立を目指します。

・就労日の出舎は、利用者の個々の機能等に合わせた作業種の検討や作業以外の活動内容を模索します。

・グループホームいずみは、グループホームの火事等防災対策が課題となっていることから、関係者の協力体制の下避難訓練等を定期実施します。

泉の家

就労移行

定員6名(現員0名)
身体・知的・精神

カフェの営業(月～金、10～15時)
区内在住の障害者の随時受入
就労移行実習受入

就労継続B型

定員25名(現員23名)
身体・知的・精神

カフェの営業
自主生産品の開発・多彩な受託作業
リサイクル自販機の直接販売
工賃目標15,500円

生活介護

定員20名(現員21名)
身体・知的

入浴、機械浴槽設備2基有
就労継続等からの移行者の受入

「わ」輪と和

就労継続B型

定員20名(現員25名)
通所ホーム8名・身体・知的

木工・受託作業・官公需受託作業・送迎サービス
地域交流・所内外行事
工賃目標21,000円 勤労日の出舎

施設入所支援

定員45名(現員46名)身体・知的

創作の活動、運動、買物等の日中支援
所内外行事、入浴、排泄、食事等の介護
健康管理、通院支援、地域交流・社会参加

短期入所

定員2名・空床型 身体・知的

地域の障がい者の精神的受入れ 日の出舎

グループホーム

部事業 定員4名(現員4名)
身体障害者手帳1,2等級

健康管理、身の回り介助、通所支援
生活全般支援、社会参加
グループホームいずみ

「みんな」が元気に

岡本福祉作業ホーム

「地域福祉の新たな展開」

日の出地域

- ・倫理綱領、行動規範、虐待防止法を遵守し、権利擁護の視点に立った適正なサービスを実施します。
- ・事業展開
- ・人事考課やリスクマネジメント及び内外の研修を充実させ、職員の資質向上を目指します。
- ・特定相談支援事業とグループ「ケア」

2013年度事業計画

就労移行

定員6名(現員1名)

下請作業・官公需受託作業・自主生産品
区内の就労支援ネットワークの活用
就労に向けての活動

就労継続B型

定員10名(現員10名)

下請作業・官公需受託作業・自主生産品
専門職による支援、通所/バス有
工賃目標9,600円

生活介護

定員24名(現員23名)

作業・創作活動・レクリエーション・グループ活動
クラブ活動・チャレンジコース
リラクゼーション・ストレッチ体操、
専門職による個別支援、分配金支給

就労移行

定員6名(現員5名)

生涯教室、工作教室による地域交流と社会参加支援
高次脳機能障害の利用者受入
クッキー製造販売と紙作業

就労継続B型

定員13名(現員11名)

区内の就労支援ネットワークの活用
専門職による支援、専門職によるグループ支援
工賃目標12,600円

玉堤分場

「みんな」が元気に

岡本福祉作業ホーム

事業所目標

「利用者が、自分らしく地域社会で過ごせるように支援を行います」

重点課題

- (1) サービス水準の向上
 - ① 多様なニーズへの対応
 - ② 加齢に伴う重度化対応
 - ③ 「リラクゼーション」
 - ④ 権利擁護・人権尊重
 - ⑤ 虐待防止「自己チェック」
 - ⑥ 「行動規範自己チェック」
 - ⑦ リスクマネジメントの充実
 - ⑧ 災害時対応と訓練の検討
- (2) 法人の社会機能の強化
- (3) 地域社会との連携強化
- (4) 「自立支援協議会エリア部会」への参加及び施設へのフィードバック

事業所目標

「達成感のある活動を目指して」

重点課題

- (1) 財政基盤の安定化
 - (2) 財務経営指標の設定
 - (3) 利用率90%を目指す
 - (4) 人材育成・人事制度
 - (5) 将来につながる人材確保と育成
 - (6) 個人別育成計画の実施
- また、昨年第三者評価の利用者・家族からの意見をもち、課題を改善していきます。今年も、皆様のご支援・協力をお願い申し上げます。

玉堤分場

法人本部

「地域福祉の担い手として」

4月1日から「障害者総合支援法」が施行されました。2000年からの福祉制度改革の流れは、地域福祉へと進んでいます。今年度は、地域福祉推進の「翼を担うべく、相談支援事業やグループ「ケア」ホーム創設を実現させるなど、地域障がい者施策に反映させるための計画を具体化することとします。

(一) 経営理念・方針

・倫理綱領、行動規範、虐待防止法を遵守し、権利擁護の視点に立った適正なサービスを実施します。

(二) 事業展開

・人事考課やリスクマネジメント及び内外の研修を充実させ、職員の資質向上を目指します。

・特定相談支援事業とグループ「ケア」

玉堤分場は、事業所目標の達成に向け、玉堤分場の地域性を活かして本園と連携し、次の課題に取り組めます。

重点課題

- ① 就労移行は、就労プログラムを通し、仕事に対する具体的なイメージの構築に努めます。
 - ② 就労継続B型は、利用者の個々の障がい特性と状況の変化を見ながら集中して働ける環境づくりに努めます。
 - ③ 販売会、出張教室、工作教室を継続に実施し、売上向上や活動を知らせてもらう機会とします。
 - ④ 保健面では、それぞれの目標通所日数に合わせて、生活のペースを保てるようサポートを行います。
 - ⑤ 給食は、利用者の働く体づくりにつながるよう委託業者と連携をとり、安心安全おいしい喜ばれる食事提供を行います。
 - ⑥ 専門職によるグループワークを活用したり、振り返りの手助けを行います。
 - ⑦ 利用者が施設での活動を利用者目線で発表できる機会を継続的にしていきます。
- 今年も、利用者と共に、満足度や達成感の高い活動を実施し、地域の活力となるよう進めて参ります。

泉の家だより



入所式

春の暖かな陽射しに包まれた、4月1日、新規利用者8名を迎え、泉の家は入所式を行いました。

名前を呼ばれ緊張しながらも大きな声で挨拶をする皆様の姿に大きな拍手が贈られました。

入所式を迎えるにあたり、みんなで「生懸命花飾りや名札を作成し、新しい仲間と会えることを心待ちにしていました！」

みなさん「食堂は3階にあるよ」「ロッカーに行くときは鍵をもらおうんだよ」と、優しく教えてくれます。緊張していた方もみなさんの優しさに触れ、素敵な笑顔を見せてくれました。

新しい仲間を迎え、よりいっそう作業や活動を充実させていきます。

入所式後には、利用者39名、ご家族様18名の方に参加いただき、事業説明会を行いました。

今年度の宿泊旅行・日帰り旅行の説明に入ると、待つてました！と言わんばかりにみなさんの表情がキラキラし

ます。

泉の家のみなさんは、お出掛けが大好きです。どのような景色、どのような美味しい食べ物が待っているのでしょうか。

みなさんの思い出のページに残る旅行となるよう、準備を進めています。

「泊旅行の様子は次号でお伝えしていきます、楽しみに！」

(水原 咲子)



みなさん、緊張されています

玉堤分場だより



利用者報告会

先日、玉堤分場では、施設を利用して、想うことを、利用者自身の言葉で、医療機関や外部の方に話してもらった機会「利用者報告会」を開催しました。

事前に質問をし、本人やご家族に原稿を作成してもらい、当日発表をしてもらった方、事前に打合せだけをし、原稿は作らずに、その場のライブ感を大切に発表してもらった方もいます。事前の質問では、分場に来て変化したことはないと口頭で答えていた方も、作ってもらった原稿には「分場に来て、まあまあよかった」と書いてあり、発表の際も、普段はあまり話さない方なのに、いつもよりもたくさん話を話され、うれしそうに驚きを感じました。

初めての試みに、発表する利用者の皆さんは緊張していましたが「職員もですが、話している姿は堂々とし、話し終えたその顔はやり遂げた達成感で、輝いて見えました。」

参加された医療機関の方から「退

院する方に紹介したい」と感想をいただき、新たな利用者の獲得にもつながっていくのではないかと思います。そして、発表することによって利用者の自信につながったことが、なによりも意味があったことのように感じられました。

(津島 将次)



貴重な機会となりました



報告者はドキドキです

日の出舎だより



大脇優馬です！

新卒で就労日の出舎に通所を開始された大脇優馬さんに色々聞いてみました。

「趣味、特技」

テレビを見る事。特に政治が好きです。ドラマやアニメは見ずお笑いを見ます。新聞を毎日欠かさず見ます。

「特別支援学校での様子」

先生が一人ひとりについて個別授業をしていて、国語では漢字のプリント、算数では掛け算、割り算、百マス計算、図形などを勉強していた。その他英語、社会、美術、体育をしていました。

「日の出舎に入った理由」

特別支援学校の実習の時にヤスリで木を磨く仕事をして、この仕事で自分に合っていると思ったからです。また二回目の実習の時に建替えで日の出舎が綺麗になっており、進路の先生にも勧められたからです。



袋詰め作業を行う大脇さん

「日の出舎での様子」

良いと思うけど、若い人があまりいないから話し辛い。作業場は狭いけどなんとか作業しています。木を磨くこと以外にもたくさん仕事があつて楽しいです。男性の職員とは話しやすいです。トイレは手すりやナースコールがあり設備は良いと思います。食事の献立にはカロリーなどが書いてあったのですこいなと思いました。

(加藤 圭介)

岡本ホームだより



作業場引越して心機一転！

4月から就労移行・継続B型の作業場と生活介護の織り作業場の部屋を交換しました。2名の利用者が新たに就労継続B型に所属となることから作業場の確保が必要となつてのことです。就労作業場は2000年から、生活介護の織り作業場は1992年から20年以上使用してました。作業場の引越して不用になったものと作業に必要なものを整えたら、作業用具や部材が取りやすいようにレイアウトを変えたことで物心ともに心機一転ができました。就労作業場で活動している利用者からは「明るい」「広くて動きやすい」「車いすで作業場内を移動しやすくなった」「ポランティアの前田さんからは「明るくなつてだいぶ広くゆつたりとした。みんなの気持ちがいい。生活介護の織り作業で活動する利用者からは「整理整頓したのでスッキリして気持ちがいい。窓が大きくなったので明るい」と就労、生活介護の利用者も気持ちよく活動できているようです。作業環境を変えるだけで気分転換にもなり作業にも活気ができました。心機一転、皆で頑張っていきます！」

(有馬 忠子)



作業場明るくなったね！



気分新たに織り作業中

「九七七年十二月三日第二種郵便物認可（毎月一、二、三、五、六、七の日十八回発行）
二〇一三年五月八日発行（SSKP増刊通巻五三八五号）」



玉堤分場

小林寛さん

今回は、玉堤分場を利用して4年目の小林寛さんにお話を伺いました。小林さんは、施設に通所しながら、スーパー「オオゼキ尾山台店」でアルバイトをしています。今回は、そのアルバイトについて寛さんとお母様にお話を伺いました。

Q1 「アルバイトに行く日はいつですか？」

A1 「火水木の午後2時〜5時です。」

Q2 「オオゼキではどんな仕事をしていますか？」

A2 「ミラとかピーマン、ジャガイモの袋詰めしてます。」

Q3 「仕事で難しい事や大変なことは何ですか？」

A3 「さつまいもと新しい大根です。（初めてやる野菜は難しいよう

です。）」

Q4 「仕事で楽しい事、嬉しい事はありますか？」

A4 「僕の作ったものをお客さんが買ってくれると嬉しいです。」

Q5 「得意な野菜は何ですか？」

A5 「赤ピーマン。」

Q6 「仕事が終わった後はどんな気分になりますか？」

A6 「いらっしやいませ〜の放送を聞くといい気持ち。いっぱいやった後はすげ〜気持ちいい。」

Q7 「これからの目標や夢は何ですか？」

A7 「レジやってみたい。ベッキーのことがいっぱい好きだから仕事がんばります。夢はベッキーを守りたい。これからも仕事がんばってベッキーとがんばります。」

「お母様からのメッセージ」

「自立になるかわかりませんが、サポートがあれば社会参加も不可能ではない。継続したフォロー、支援があるから本人も親も安心して続けていけると思っています。寛の場合は困難を回避できないので、トラブルが発生し

たり、説明できない何かが生じた時に挫折すると思うのですが、支援者によって気持ちが安定していられると考えています。そのため続けられるのだと…。この点が障がい者の特別なニーズなのだと思います。」

オオゼキでのアルバイトは、実習から始まり、時間や日数、できる作業も徐々に増やしていくことができました。これも寛さんの頑張りとお家族とオオゼキ、関連機関のご協力があったことです。長く働いてけるように、また夢に近付けるように今後も寛さんと一緒に頑張っていきたいと思っています。

（伊達 紫瑞）



がんばってるオレ。ちょ〜カッコいい！

発行所 障害者団体定期刊行物協会 鎌倉市上門
東京都世田谷区星六の二六の二
編集人 社会福祉法人 泉会

製品紹介

岡本ホーム

「牛乳パックで作った製品というところ、いかにもエコ製品といった感じが前面に出過ぎていて新鮮味がない」といった印象が私の中にありました。牛乳パックが原料となるともっと安っぽいものを想像していましたが、出来上がった製品を見てみると本当に原材料が牛乳パックだとは信じられないほど温かみのある優しい色をしていました。利用者の方が作成したキャラクターや柄がカードの表紙に張り付けてあり、どれもそれぞれ違う形をしているので個性の違いが良く分かる作品に仕上がっています。利用者の方の想いがこもったメッセージカードを是非お手にとってみて下さい。



紙すきカード

大 150円
小 100円

大口注文も承ります
ご相談下さい。

お問い合わせ先
岡本福祉作業ホーム 陶山
電話 03-3415-3366
FAX 03-3415-4976
e-mail: okamoto@izumikai.jp